

早稲田大学 国際教養学部 英語 講評

〔総合分析〕

出題形式	マーク・記述併用
試験時間	90分
特徴・その他	昨年と同じ出題の配列ではあるが，出題のパターンは異なる。つまり，過去問からヤマを張ったような勉強ではなく，きちんと“英語”を学習した人はそれなりの成果が見られるであろう。暗記重視の古いタイプの英語学習に一石を投じる設問内容となっている。

〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
	1)空所補充	前後に解答を導くヒントが有り，理論的な文法力を要する。	やや易
	2)内容一致選択	単語を拾い読みしない読解力が必要だが ,not に注目するなど文法的な解法もある。	
	3)内容把握	選択肢のキーワードを本文に探しに行けば解き易い。	
	1)内容把握	作者の性別，家系図などが把握できると良い。	やや難
	2)空所補充	関係詞と接続詞が中心。文構造から考えられる人にはラッキー問題	
	3)語彙選択	この単語を知ってうけた人は少ないであろうから，前後を見て判断すると良い。	
・	リスニング	キーワードを聞きもらさないように。	
	英作文	書き易いテーマなので，難しく書こうとしてケガをしないように。 このようなテーマは一長一短が有ることに触れると良い。	易

〔総合コメント〕

<p>は解答，選択肢の部分以外に don't など not を短縮形にした否定文が無いのにお気付きだろうか？ not や “ ” の強調を利用した，出題者の知性がうかがえる問題。</p> <p>は詩情的な回想文なので，“文脈から～”という当てずっぽうの創作日本語作文ではつらいかもしれない。</p> <p>全体的には決して難問では無いが，英語の学習が暗記にとどまり，理論的な思考を伴わない人にとっては，拒否反応が出るような総合力を要する良問である。</p>
--